

## A 会場

### 第1部 リハビリテーション (5月19日(木) 10:30~11:30)

座長 愛知県 医療法人和光会 介護老人保健施設 清風苑

リハビリテーション部副部長 二村 誠

- 
- 1 目標を共有して意欲を高めることができたリハビリの取り組みについて  
コロナ禍でも機能低下を予防し、楽しみを見つけよう
- 愛知県  
老人保健施設 かずえの郷
- 言語聴覚士 鞍貫 詩野
- 生活期においた訓練では、本人と確実に目標を共有する事で意欲を高め、効果が得られる。コロナ禍の制限の中、音楽療法士と連携し個別で取り組んだ結果、有効的な機能改善が図れ、QOLの向上にも繋げる事ができた為報告する。
- 
- 2 デイケアにおける効果的なりハビリテーションを目指した取り組み  
リハビリテーションマニュアルの共同作成を通して
- 岐阜県  
介護老人保健施設さわかりバー  
サイドピラ
- 理学療法士 増田 和弘
- デイケアにおいてリハビリ専門職でない職員がリハビリに関わる上で抱く不安を解消するために、医学的知識やリハビリ方法に関するマニュアルを共同作成した。マニュアル作成を通しリハビリ専門職でない職員であっても主体的にリハビリに取り組めるようになった。
- 
- 3 超強化型老健における集団リハビリの必要性について
- 石川県  
介護老人保健施設 あゆみの里
- 作業療法士 北 薫
- 当施設は入所56床リハ2名体制で超強化型を取得した。週3回の個別リハビリ実施に伴いリハ内容を見直し土日祝日勤務を取り入れ、多職種協働で集団リハビリを行い効果が得られたので報告と今後の課題について考察する。
- 
- 4 リハビリ会議の開催により自宅での移動方法が改善した症例  
～多職種連携によって～
- 岐阜県  
山内ホスピタル介護老人保健施設
- 理学療法士 舘 英実
- 当施設では、今年度4月よりリハビリテーション会議を開催している。リハビリ会議の中で本人と家族の希望を聴取し、多職種で加入したことにより、自宅での移動方法が車椅子から四点杖に変更となった症例を紹介する。
- 
- 5 MTDLPの導入により目標が明確化し目標達成に至った事例  
通所リハにおける作業療法士の役割
- 福井県  
介護老人保健施設 アルマ千寿
- 作業療法士 南部 夏水
- 中心性脊髄損傷により日常生活活動能力が低下し、在宅生活にて夫に負担をかけてしまうと落ち込んでいた事例に対し、通所リハにてMTDLPを導入した。その結果、目標が明確化し目標達成に繋げる事が出来た。
- 
- 6 リハビリテーション会議におけるアンケート調査  
効果的なりハビリマネジメント目指して
- 石川県  
金沢春日ケアセンター
- 理学療法士 田口 典嗣
- 通所リハビリテーションサービスにおけるリハ会議について、リハビリ専門職と介護支援専門員へアンケートを実施した。情報の共通理解や利用者の生活の変化など効果的であるという結果と同時に課題もみられた。
- 
- 7 トーチを持って歩きたい！  
～本人の思いに寄り添って～
- 富山県  
シルバーケア栗山
- 理学療法士 山崎 銀平
- 聖火ランナーとして、トーチを持って歩きたいと希望する脊髄梗塞を呈した症例を担当した。本番までの約1年間の経過と本番に向けての取り組みをまとめたので報告する。
-

## A 会場

### 第2部 全般的なケア・人材（5月19日（木） 11:30~12:30）

座長 静岡県 医療法人社団一穂会 西山ウエルケア

指導主任 鈴木 裕子

- 1 報告書の改善から展開されたケアプラン評価会議  
～1人の利用者を全員で～

愛知県  
介護老人保健施設あおみ

介護福祉士 益田 匠悟

デイケアのケアマネ報告書にケアプラン内容を反映させたことで、ケアプラン評価会議という流動的な仕組み作りが構築できた。利用者に対し、個人の視点から全員の視点へ切り替わったことで、職員の意識変化も見られた。

---

- 2 多職種との連携の取り組み  
～ひと手間を惜しまないことが幸せにつながる～

石川県  
介護老人保健施設なごみの里鹿島

施設ケアマネージャー 長端 泰子

利用者様をケアしていく上で多職種との連携は必要不可欠である。なごみの里鹿島で連携がうまくいかない現状や、今後どうやって連携を密にしていけるかの取り組みについて発表します。

---

- 3 見えない身体拘束をなくすために  
観察シート導入による職員の意識変化

静岡県  
介護老人保健施設 桔梗の丘

介護福祉士 和出 早織  
介護福祉士 長澤 瞳

拘束ゼロにむけた取り組みが行われているが、目に見える拘束がゼロになっても、スピーチロックや業務優先の介護が行われていると感じていた。観察シート導入により、職員の意識に変化がみられたのでここに報告する。

---

- 4 リハビリ職による技能実習生への介護指導  
言葉という壁を超えて

岐阜県  
老人保健施設サンバレーかかみ野

理学療法士 太田 成美

令和3年3月頃よりインドネシアから介護の技能実習のため来日。介護の起居・移乗を中心とした介護技術を習得できるよう、リハビリ職から指導を実施した。令和3年3月から現在までの経過を報告する。

---

- 5 外国人職員のスキルアップを目指して  
～キャリア段位制度を活用したOJTの取り組み～

富山県  
介護老人保健施設おおぞら

介護福祉士 澤田 悟

介護現場では人材不足が深刻化しており、当施設ではH31年から外国人職員を受け入れ、介護職員として働いています。受け入れ当初よりコミュニケーションや介護技術など様々な課題があり、指導方法を模索してきました。今回は介護技術の向上、スキルアップを図る為、当施設が取り入れている介護キャリア段位制度を活用したOJT指導の取り組みについて報告します。

---

- 6 科学的介護の実践に向けて  
元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業への取り組み

富山県  
介護老人保健施設 みどり苑

介護福祉士 福澤 皇太浪

新田富山県知事が「富山八策」で提唱する「元気高齢者による介護助手制度導入モデル事業」への取り組みと、効果についての検証。

---

- 7 腰痛予防の取り組みと評価

石川県  
独立行政法人地域医療機能推進機構  
金沢病院附属介護老人保健施設

介護福祉士 端浦 吉治

介護の現場では、腰に負担がかかる動作が数多くある事から、慢性的に腰痛を抱えている職員の割合は高い。そのため腰痛を予防していく必要があると考え、腰痛予防の取り組みを行い評価した。

## A 会場

### 第3部 認知症・排泄・全般的なケア (5月19日(木) 13:20~14:20)

座長 富山県 医療法人社団いずみ会 老人保健施設シルバーケア栗山

主任 茶木 隆一

- 
- 1 レクリエーションを通して認知症の進行を予防しよう  
コロナニモマケズ
- 岐阜県  
松波総合病院介護老人保健施設
- 介護福祉士 大嶋 寛昇
- 認知症の中核症状の記憶障害、見当識障害に重点を置いて塗り絵などのレクリエーションを通して脳に刺激を与えて活性化することでミニメンタルステート検査のスコアを維持、向上させて認知症の進行予防に取り組んだ。
- 
- 2 適切なオムツ・パット使用方法の周知
- 愛知県  
介護老人保健施設トリトン
- 介護福祉士 永松 武士
- 今回、トリトン2階介護では新しく導入されたオムツについてその性能を理解し、正しく使用することで最良の排泄ケアが行えるようにするため「オムツ・パットの適切な使用方法の周知」に取り組みました。
- 
- 3 利用者に応じた排泄用品と交換回数の見直し  
～見て・触れて・測って・もう一度～
- 石川県  
加賀中央メディケアホーム
- 介護福祉士 畑 瑞絵
- 個々に応じた排泄用品の選択により、職員の意識改革と利用者様の排泄ケアの統一ができ、交換回数の見直しにつながったのでここに報告します。
- 
- 4 筋萎縮性側索硬化症を呈し、自宅トイレでの排泄継続を目指した症例  
本人と主介護者の想いを汲み取って
- 石川県  
介護老人保健施設 陽翠の里
- 理学療法士 生森 貴士
- 入所期間中、筋萎縮性側索硬化症による病状進行にて自宅トイレでの移乗動作が困難となる事が危惧された。本人と主介護者の想いを汲み取り、両者が納得し自宅での排泄を継続できるように入所と通所リハでアプローチを行った症例。
- 
- 5 高浜老健の身体拘束・高齢者虐待防止に関する取り組み  
「ちょっと待って!」はちょっと待って!! スピーチロックを減らすために…
- 福井県  
独立行政法人地域医療機能推進機構  
若狭高浜病院附属介護老人保健施設
- 介護福祉士 中河 周哉
- 当施設での身体拘束・高齢者虐待防止委員会の活動内容を紹介する。また現在も取り組んでいる『何気ない日常生活の中に潜む目に見えない拘束』に対する改善・防止策と職員一人一人の意識、ケアの質の変化、取り組む中で見えてきた今後の課題と目標を報告予定。
- 
- 6 施設生活における ADL と意欲の関係性について  
意欲向上に伴い ADL が改善された症例
- 静岡県  
介護老人保健施設ヒューマンライフ  
富士
- 理学療法士 長澤 和弥
- 施設で生活をしている利用者の ADL 向上における阻害因子として意欲の低下が考えられる。意欲増加に伴い ADL の向上が見られた症例を参考に、意欲と ADL の関係性について考察したためここに報告する。
-

## A 会場

### 第4部 医療と看護介護・業務改善と効率化（5月19日（木）14:20~15:20）

座長 岐阜県 医療法人和光会 介護老人保健施設 寺田ガーデン

副施設長 栗田 祐子

#### 1 老健におけるターミナル期の試行的外泊を行って

福井県  
リバーサイド気比の杜

高齢化社会の中、老衰などで死を目前にしている利用者のご家族へのケアは大きな課題である。老健のターミナル期の試行的外泊に必要な条件・家族支援の必要性・家族も満足できる看取りについて考察を交えながらまとめた。

看護師 山本 紀子

#### 2 下肢壊死の方への多職種支援

福井県  
介護老人保健施設ケアホームさいせい

老健では対応困難な下肢壊死の方の受け入れ～看取りまでを行った。その過程でスタッフの不安、感染・下肢脱落・褥瘡リスク、家族の受け止め方等の課題に対して、多職種で関わった事例をここに報告する。

看護師 吉川 直美

介護士 甲斐 朝憲

#### 3 医療法人明寿会のDX その2 「健康管理システム」について

富山県  
アルカディア雨晴

当法人ではインフルエンザの施設内感染予防のため、以前より出勤時に職員通用口で接触型の体温計を用いて、体温を測定し、ノートに手書きで記載することを行っていた。2年前からの新型コロナ感染症の流行以来、非接触型体温計と顔認識システムによる健康管理システムを開発運用し、大変役立っているため、報告する。

医師 福田 英道

#### 4 ノロウイルス感染症から利用者様を守る為に 業務改善委員会の取り組み

石川県  
介護老人保健施設 百寿苑

当施設において、平成30年11月上旬から下旬にかけて、ノロウイルスの集団感染が発生した。この体験をきっかけに、感染症から利用者様を守る為、業務改善委員会（業務内容の見直しを行う）で取り上げ進めてきた事例。

介護福祉士 町元 規弘

#### 5 業務改善 業務カードを作成し、業務の効率化を図る

三重県  
志摩市介護老人保健施設 志摩の里

日常業務の効率化を図るため、数種類のカードを作成した。その結果、スタッフ間の伝達がスムーズになり、作業の効率化が図れた。

介護福祉士 田畑 雄一郎

介護福祉士 長野 英代

#### 6 スキンケアって何？ 利用者さんの日常生活を見直して皮膚を知ろう

三重県  
介護老人保健施設トマト

日常生活の中で何気なく内出血や表皮剥離を見つけてしまう。あまた事故報告書だ…ちょっと待って！！利用者さんの皮膚を理解してスキンケア（皮膚剥離）についてきちんと知れば、原因の除去として予防や対策、情報の共有が出来て早期発見に努められるのではないだろうか？その実践と経過をここに報告します。

介護福祉士 松井 涼

## A 会場

第5部 在宅支援と地域連携・リスクマネジメント・コミュニケーション・体位保持 (5月19日(木) 15:20~16:20)

座長 富山県 医療法人社団啓愛会 介護老人保健施設ゆうゆうハウス

利用相談室長 府中 志帆

- 
- 1 加賀ブロックにおける  
「在宅アセスメントシート(加賀ブロック版)」の試用について
- 石川県  
介護老人保健施設加賀のぞみ園
- 作業療法士 中森 清孝
- 今回、在宅状況アセスメントについての事前調査をもとに「在宅アセスメントシート(加賀ブロック版)」(以下、当シート)を作成し、試用した。その結果、在宅アセスメント時の特性や当シートの有用性や今後活用していくにあたっての改善点などを知ることができた。
- 
- 2 センサーの使用を見直そう
- 石川県  
福久ケアセンター
- 介護福祉士 石坂 智江
- 転倒ハイリスクの利用者へのセンサー利用数は、様々な要因から一度設置すると容易に外すことができず、増加傾向にあった。そこで今回、利用者およびセンサーの使用状況のアセスメント・独自のフローチャートを使用した取り組みについて報告する。
- 
- 3 共有から専用に
- 福井県  
介護老人保健施設あじさい
- 介護士 西野 浩章
- 当施設では、入所利用者とデイケア利用者は1つの浴室を共有し、同じ時間帯に入浴を行っていた。コロナ禍となり感染予防及びサービス向上のために昨年デイケア専用浴室を新築した。これまでの経緯と使用後の変化について報告する。
- 
- 4 「私、家に帰りたいんです」  
～それぞれの想いに寄り添って～
- 石川県  
介護老人保健施設 加賀のぞみ園
- 看護師 松本 知子
- 介護老人保健施設の重要な役割の一つとして利用者様の在宅復帰があげられ、当施設においても積極的に在宅復帰に取り組んでいる。しかし、入所期間が長期化するほどADLの低下、また家族の受け入れ意欲の低下があり、在宅復帰が困難になる傾向がある。今回、本人が家に帰りたいと言う思いに至った経緯、家族の気持ちや受け入れに対する思いなどに視点を当てて取り組んできたことを報告する。
- 
- 5 昆布ケーション  
郷土の味が食べる力に
- 富山県  
老人保健施設アルカディア氷見
- 管理栄養士 川合 智也
- 富山県民、特に高齢者に昆布は馴染み深い食べ物である。日々のコミュニケーションに昆布を用いることで懐かしい味が脳の長期記憶や五感を刺激し、吸啜運動が咀嚼・嚥下機能にリハビリ的に働く効果も期待できる。
- 
- 6 「皮膚トラブルにより長期臥床となったが、皮膚状態の改善を経て、離床に繋がった症例」
- 福井県  
介護老人保健施設あじさい
- 作業療法士 浅田 一之
- 長期臥床は様々な弊害を生む。そのため、長期臥床から離床に向けて多職種協働で取り組み、リハビリ職もポジショニング等で関わる。皮膚トラブルがある状態で入所、長期臥床されていた症例を離床にまで繋げたことを経過報告する。
-